

能登半島地震 ボランティア活動

【日 程】

4/23(月) パチンコ3名・アミューズ2名・総務1名

【活動内容】

被災地住民の方々へのお手伝い

【テ ー マ】

日頃、能登のお客様には大変お世話になっており、今回の地震災害後常々、私たちが出来ることは無いか、考えていました。私たちのお店が、このような時期にも関わらず、日々営業が出来ているのも、地域の皆様の支援があればこそと考え、今、私たちに出来る事は、クアトロブームとして、又、能登に住む1人として、これまでお世話になった地元の皆様へ「感謝」「思いやり」の気持ちを持ち、何かお役に立てる事はないかと思い、震災地ボランティア活動をすることにしました。

今回、現地の作業内容の関係で、参加したくても出来ないスタッフ（女性）は、「感謝」「思いやり」の気持ちを参加者へ託し、自分たちは、飲み物の準備等、参加者のために「縁の下の力」となって、支えることでスタッフ全員が一丸となり、社会貢献に取り組めます。

【4/23(月)の活動報告】

—ボランティア内容—

倒壊した家屋の解体作業前の燃えるもの選別作業及び廃棄処分（2名）

集積場に集められた廃材（燃・不燃）の撤去作業及び運搬（4名）

参加6名は3班に分かれての作業（トラックによる運搬）

—現地入りして思ったこと・感じたこと—

私たちは、20日と23日に分かれて活動する計画を立て参加いたしました。

前半のスタッフの感想を聞き大変さは分かっていたつもりでした。現地入りした私たちは、本心で思ったほどの被害状況に無いように目に映りました。ニュース等で見えてきた光景とは、はるかに違っていたのが実感でした。でも、それは間違った判断でした。すでに作業が進んでおり、見える範囲での凄さは無くなっていることを聞かされました。

実際に、廃棄物処理場に山と詰まれた家具・瓦礫は想像以上のものです。まだまだボランティアが必要だそうです。私たちが行った作業は、ほんの一部に過ぎないなと実感いたしました。

今回のボランティアで、松本副店長と岸くんが依頼され選別作業に行った家は、以前にクアトロブームに度々来店されてたお客様の家だったそうです。現状の光景に、依頼者の方の顔をまともに見れなかったそうです。言葉をかけるのがやっとで、「大変ですネ、がんばってください」しか言えなかったと聞かされました。

ボランティア参加して、私自身が周りの光景をみて感じたことは、年配者が多く、これから復興するには、まだまだ時間と労力の必要をまじまじと感じました。

仮設住宅の建設も始まっています。家屋は危険度チェックを受け“赤紙”を貼ってある家屋が目立ちました。私たちは、被災地の方々が来店できるようになって、クアトロブームに来られる日を心待ちにすると同時に、お客様を暖かく迎え入れられる接客に全力で取り組む必要があります。この体験が決して無駄ではなかったことを実感いたします。